

令和6年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第2回夢ファンド部会 記録

日時：令和6年11月13日（水）
午後2時00分～午後4時10分
場所：刈谷市役所 701会議室

出席者

団体名・役職等	氏名
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	加藤 恵子
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
一般公募	石田 彰宏
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛

欠席者

団体名・役職等	氏名
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した。
- ・まちづくり活動支援事業のうち、申請見込み額5万円以下の申請は、予め採点いただいた結果を事務局にて集計した後、議題（3）において結果をもとに審議を行う。

2. 議題

(1) かりや夢ファンド補助金公開審査会について

■資料1-1、募集要項を提示し、公開審査会の進行について事務局が説明した。

(公開審査会)

- ・1月18日（土）13時～15時50分までの予定で刈谷市民ボランティア活動センター（以下、ボラセン）にて開催。審議は刈谷市社会教育センター502 実習室にて行う。
- ・12時50分までに502 実習室に集合。進行説明の後、審査会場のボラセンに移動する。

（申請状況）

- ・7月16日（火）～9月30日（月）を募集期間とし、まちづくり活動支援事業6件の申請があった。うち4件は申請見込金額5万円以下のため、公開審査会の出席は不要。書類のみで採点を行う。NPO法人設立支援事業の申請はなかった。

■質問・意見交換

特になし

■申請書類の確認

【資料1-2、1-3、1-4、募集要項】に基づき事務局より説明を行った後、意見交換を行った。

- ・まちづくり活動支援事業の趣旨は、市民団体などが、「継続」して「自主的に」行う「公益的な」まちづくり活動の手助けとなるように支援するものである。「1団体につき原則2回まで」であるが、事業内容が明らかに異なる場合に限り、3回目の申請を受け付ける。
- ・まちづくり活動支援事業は申請6件、申請金額575,000円、申請額は昨年度と比べ若干増加した。
- ・本日の質問・意見を取りまとめ団体に伝え、その内容を踏まえて公開審査会出席団体はプレゼンテーションを行う。申請額5万円以下の団体は、本日の審議にて採否を決定する。

■意見交換を受けて、事前質疑内容を以下の通り確認した。

■まちづくり活動支援事業 ★公開プレゼンありの2事業

団体名／事業名	質問等 ※【】内は事務局から回答、□内は委員所感
スマイルリンク ★子ども食堂にお祭りを届けよう	▼書面による回答 ・昨年度の決算収入額（35万円）の内訳をご説明ください。 【一昨年度（補助金採択）の結果を確認する（収支0円に近い場合、継続の見込みがない）】 ・開催場所と協働する子ども食堂および協働する団体の関係について、ご説明ください。 ・市内で複数開催される子ども食堂のうち、対象の子ども食堂を選んだ理由は何ですか。問題意識の持ち方や経緯についてご説明ください。 ・子ども食堂の利用者の現状について、どのくらいのニーズがありますか？また、回数はなぜ4回と設定しましたか？ ・子ども食堂の認知促進のためにPRなど行っていく予定はありますか（福祉・健康フェスティバル等）。 ▼プレゼンにて回答 ・補助金終了後の事業の持続性をどのように考えていますか。今後の持続にむけて、収入（寄付金、参加者等）のうち何を増やし、支出（消耗品費等）をどう削減するか。 【資金使用先として事業のための資産として残していくもの（テント、テーブル、ゲーム用品）の購入を考えられている】 ・どのような経緯でこの活動を始められましたか？ ・子ども食堂の認知促進等の目的について、1回目の実施からどのような変化がありましたか。 【イベントはふれあい食堂では効果があった】 ▼事務局による状況確認 ・一昨年度（補助金採択）の収支決算を確認する。

<p>刈谷市赤十字奉仕団</p> <p>★赤十字ハートフェスティバルⅢ～たいせつな未来のために～</p>	<p>▼書面による回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念誌の制作数は何部を予定されますか。 ・かるたの制作数について、小学校全校に配布する予定ですか。また対象学年等について、現在想定する数をご説明ください。 ・小学生が作る文章に、中学生が挿絵を描くといった中学生が関わる取組は考えられますか？また、募集から選定はどのように行いますか。 ・メンバーが多くいる中で、提案事業の運営はどのような体制で行いますか。 <p>▼プレゼンにて回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用のされ方のイメージを具体的にお聞かせください。 ・年月が経ってもかるたがきちんと活用されるために、どんな工夫をしますか？ ・かるたを渡すだけに留まらず、学校のカリキュラムに使われるようなアプローチを予定しますか？ ・「小学校×地域の防災会」等、既にある防災学習と防災かるたの関係性をどのように持たせますか？ ・高浜市の防災かるた事業では、学んだ子どもが教える側になるサイクルがある。そうした将来像はあるか？ <p>▼事務局による状況確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（行政内の担当事務局へ確認）奉仕団にもっと男性に入っていたかどうかを検討しているか。
--	--

1 スマイルリンク「子ども食堂にお祭りを届けよう」 申請金額 200,000 円

（事業の展望・継続性）

- 委員：2年目の活動。事業後の展望に「子ども食堂での活動を自律的に行えるよう（※）」とある。子ども食堂運営者やボランティア含め集まる人たちもイベントと一緒に取り組み、ノウハウを伝えと次に活かせる。2年で終わりとせず、その後も関わりを持っていただけると良い。
※団体はノウハウを伝えることは想定しておらず、「（スマイルリンクが）子ども食堂での活動を自立的に行えるよう」という意図で記載している。
- 委員：補助金頼みの事業に見える。3年目はどのように運営するか。申請団体にとって先立つものがなければやっていけない。自主事業を展開するのは難しいことである。
- 委員：にぎわいの創出や子ども食堂の認知を高めて行きやすくするのが主たる目的であるのはよい。前回の実施から、どの程度変化があったのか申請書からは分からなかった。財政状況 35 万円＝収入の総額でよいか。予算書上自己資本が低い。次の実施に向けた展望があるとよい。
- 委員：テントを購入すれば手元に残るがそれだけで3年目に何ができるか。次の人たちを盛り上げるために考えていただけるとよい。
- 事務局：サメ釣りセットなどのゲームや、テーブル・椅子は今後も活用していただける。備品の定義は3万円を超えるものとしているため、消耗品に計上している。
- 部会長：ゲームなど備品として活用できる資源はどの程度所有しているか。
- 委員：継続事業の場合について、夢ファンド補助金実施年度の収支決算・実績報告を確認できるとよい。補助によって参加者数の確保につながるのであれば単発的な活動であっても意義がある。イベントの収支がプラスマイナスゼロでは継続性が見込めない。
- 委員：開催場所は桜市民館、長善寺であるのに、協働する団体は、学区外のかりがね小のおやじの会である。かりがね小地区で会場や協力者が見つかるとうい。
- 委員：開催地域の近隣で協力を得られるボランティア団体をあたってみてはどうか。
- 事務局：桜市民館、長善寺は、いずれもほっとライスの子どもの食堂の会場である。
- 委員：地域食堂（ふれ愛食堂）の運営に携わった経験から、子どもが楽しめるイベントがあると、食堂のみの開催時より多くの参加がある。ただ、お金がかかることなので、何回もやることは難しいだろう。イベントの内容によっても参加者数に影響する。多くのことを取り組めばその分

の参加は見込めるが、一時的にたくさん取り組めても、次の年からは食堂だけになってしまう可能性が高い。

委員：ペットボトルで手作りして輪投げ大会をすることもある。

部会長：イベントへの参加は有料か。

事務局：参加費は 50 円だが、子ども食堂利用者は無料。

委員：収入を確保するには、参加者数を増やすか寄付金が考えられる。支出は、継続的に活用できるものの合計は 20 万円以下のため、消耗品として出ていく部分が多い。補助金がなくなっても、収入がいくらあれば必要な消耗品が確保できるか、説明いただけると継続性の判断がしやすい。

（子ども食堂の現状：活動を始めた経緯）

委員：子ども食堂を利用する子どもたちの年齢層や利用は増えているか。子ども食堂の開催頻度はどのような現状か。また団体のメンバーは、子ども食堂の運営ボランティアとして関わられたことはあるか。子どもの課題を解決したくて活動をはじめたのか。

部会長：今後に向けて、申請書に事業を始めた背景や課題の現状が説明されるとよい。

委員：子ども食堂は市内 10 か所程度ある。子どもの貧困対策として、食事を提供しお腹いっぱい食べてもらうことを目的としている。ただ、対象者は特定できないため、親子連れや高齢者も含めて誰でも来れるようにして、その中に含まれていればよいと考え、市民館の他、就労支援継続事業所の一角やお寺などを会場に開かれている。場所によって規模ややり方が異なり一概に言えない。規模が大きくなりすぎると一対一のコミュニケーションが難しく子ども食堂本来のねらいが薄くなる懸念はある。

委員：許認可等は必要か？

事務局：1 回の食事提供が 20 食以下の場合、食品衛生許可の届け出は免除される。

部会長：子ども食堂を支援することが目的の活動である。1 回目の申請時に得られた情報があれば確認した上で、そもそもの活動の始まりや開催場所を選んだ経緯を説明していただくとよい。

委員：福祉・健康フェスティバルにブース出展する機会があれば、市民に子ども食堂や子どもの課題を伝えることができる。今後検討していただくとよい。

2 刈谷市赤十字奉仕団「赤十字ハートフェスティバルⅢ～たいせつな未来のために～」

／申請金額 200,000 円

委員：小学 4～5 年生は防災教育で自主防災会や消防団の話聞く機会がある。作成した防災かるたは学習の中でどのように活用するか。高浜市では子どもたちがかるたの作成から関わり、さらに次世代へ伝えるしくみがある。将来の夢や実現したいことを絵や図を用いてもよいので示してもらいたい。

委員：名簿によると会員は女性が多い。大きい荷物を運んだりテントを建てたり、力仕事もあり、男性が団員に加わる工夫があるとよい。最近は女性も働いている人が多く、集まりに参加するために仕事を休んでいる人もいると聞く。規約では団員は女性でないといけなという決まりはないので、男女混ざってやっていけるようになるとよい。

委員：他の地域では、男性が関わっているところもある。

委員：赤十字奉仕団には参加資格は必要か。

委員：指導員の方は講習を受けているが、団員は不要である。地区ごとに選び方は異なるが、女性の会で地区の会長を務めた後メンバーとなった。提案事業を担うのは役員を中心としたメンバーだと思われる。

事務局：生活福祉課が事務局を担当する。男性団員のあり方などは確認しておく。

委員：かるた、記念誌の制作部数と配布する部数を知りたい。

委員：各小学校へ 1 つずつ配布するのか。寄贈された時だけでなく、翌年度以降も継続して活用さ

れるような工夫を検討いただきたい。

- 事務局：市内の学校数は、小学校 15 校、中学校 6 校、特別支援学校 1 校、計 22 校。各校に1つか、クラスの数を検討するか、確認したい。
- 委員：挿絵の謝礼は、小学生が受け取るものか。
- 事務局：デザイナーの方に依頼すると聞いている。
- 委員：既存の防災ポスターコンクール出品作品を活用したり、中学生を対象にテーマを示して募集してみたり、小学生が文を作り、イラストは中学生にお願いして、参画機会をつくってはどうか。
- 委員：かるたの大きさも通常のサイズでは目立たないため、大きくしてみてもどうか。
- 委員：申請回数 2 回目とは、事業の実施か、団体としての補助実績か。
- 事務局：団体として 2 回目の申請である。平成 27 年度に 1 回目の補助事業として、赤十字ハートフェスティバルⅡを開催。「赤十字ハートフェスティバル」を 10 年に一度開催されている。

(2)まちづくり活動支援事業のプレゼンテーションの順番について

■公平性に配慮するため、部会長が抽選を行い、プレゼン発表順を以下の通り決定した。

順番	団体名
(1)	スマイルリンク
(2)	刈谷市赤十字奉仕団

(3)まちづくり活動支援事業補助金(5万円以下)書類審査について

【資料1-3、1-4申請書】に基づき事務局より説明を行った後、審議を行った。

部会長：合計点は、全ての団体が基準点（まちづくり活動支援 12.5 点）をクリアしている。1 団体ずつ審議を行う。

●まちづくり活動支援事業：書類審査

3 サブロー・ガルテン「俳優松原実智子さんの朗読を聞く会」申請金額 25,000 円

- 委員：活動時期は令和 7 年 3 月となっているが間違いはないか。
- 事務局：当該年度中の補助金支給を可能としたため、開催日として問題ない。
- 委員：子どもたちに対する情操教育となる取組で、文化的な活動は生活をより豊かにするものである。継続して活動していくため、講師を招きレベルアップを図る。小学生にとどまらず、乳幼児にも機会を広げて伝えてほしい。
- 委員：事業収入のうち、990 円とした理由は？
- 事務局：参加費等が千円以上の場合、会場費が割高になると聞いている。
- 委員：録音・録画は許可を取っているか。自身の活動で、会場提供者に断られた経験がある。
- 委員：講師依頼をする際に、撮影の許可をとることでよい。
- 部会長：録画の活用方法を合意する必要がある。題材に取り上げる森三郎さんは刈谷市で童話賞も設けられており、地域貢献につながるとよい。
- 委員：今回の申請に限らず、採択事業の実施結果について、部会員へ報告する機会は設けられるか。実際の参加者数や実施内容について知りたい。
- 事務局：前年度の実施事業について、翌年 6 月部会にて報告する。
- 部会長：朗読会の参加者が継続的に活動するとした場合、日常的な朗読会の開催頻度や形態について記載があると、学びが活動に活きるということが分かりやすい。
- 事務局：採択通知を送る際に、日常の活動について情報提供のフォローアップをすることはできる。

◎アドバイス

- ・「録音・録画」する場合、講師の許可を取ってください。

4 亀城わっしょいプロジェクト「コネクドームでハーブの育成を通じた人々の交流」

申請金額 50,000 円

委員：コネクドームは来年3月までの期間限定と聞いている。来年度以降どのように継続するか。

事務局：正式な決定ではないが、来年度は継続する予定である。

委員：土地の所有者は誰なのか、資料から確認ができない。来年度以降継続できないのであれば、継続性は評価できない。

委員：コネクドームの所有者は誰か。また設置目的は何か。

事務局：市が所有する亀城公園に賑わいを創出する目的で設置。ドームの制作などの事業を受託したプランエイチ株式会社のスタッフが、委託業務以外でボランティア活動を行う団体を立ち上げ、このたび申請があった。向こう1年は続けられることは運営会社であるため承知されている。

委員：会社の中に団体の事務局があるため分かりづらい。市民が多く関わり、声を集めて活動したい、と説明され、ボラセンの団体登録手続きを進めた経緯がある。思いを持って活動されている。ワークショップを重ねてアイデアを集め、事業を展開する。資金管理を明確に分けることができればよい。

委員：そのような点が申請書から読み取れるよう書かれるとよい。メンバーの半数が市外の方である。

事務局：成果が市内にもたらされる活動であれば対象としてよい。

部会長：事業計画が白紙のため、実現性や発展性を評価することができなかった。

事務局：協働団体である「Shiro」は公園整備課が行う事業においてワークショップ開催実績がある。

委員：事業の目的・ねらいに「見た目が良くない土地のため」とあるが、土地の補整は委託費用で賄う内容ではないと判断してよいか。また、見た目がよくない場所では交流ができないとまで言い切れず、計画に一貫性がない。絞り込んで書いていただけるとよかったが。

委員：花壇の面積はどのくらいか。

部会長：ハーブガーデンは、一年を通して誰が管理をするのか。

委員：ワークショップをいつどのような内容で、誰を対象とするか、イベントの計画をどのように考えているのか確認したい。

◎条件付採択：下記2点を明確にすること。

- ・事業計画・スケジュールを具体的に記載にしてください（想定する対象者、WSの内容、ハーブガーデンの面積、ガーデンの日常的な管理方法等）。
- ・コネクドームは2025年3月31日までの期間限定ですが、その後の活用についてはどうなりますか。来年度以降の活用計画についてご説明ください。

5 Liaison (リエゾン)「保護犬・保護猫チャリティーマルシェ プ・ア・プ」申請金額 50,000 円

委員：収支予算書について、会場費の占める割合が最も大きく76,000円。収益は、自己資金と事業収益あわせて50,000円。補助金収入がなければ収支が成り立たない。今後どのように開催していく予定か。活動のねらいは大変よく、他団体が取り組む保護活動に参加した際には多くの参加があり賑やかであった。

委員：取り組みを行うことにより、どのように事業が発展するかのイメージがなく分かりにくい。

事務局：これまで2回開催実績はある。補助金以外の財源をどのように考えているか確認する。

委員：チャリティーマルシェの開催により、会場内の募金箱設置による寄付金収入や、マルシェ出展料が見込める。

委員：5万円という少額補助ではあるが、継続的なまちづくり活動を応援する主旨であるため、発展・継続性の欄に、今後の収支計画として自主的な運営の見込みが書かれると評価がしやすい。想

いだけではなく、財政根拠が数値で示されるとよい。あくまで計画であり、その通りできなくてもよい。仮に、自己資金を捻出できる限度額が5万円としたら、会場費もまかなえない。

事務局：来年度以降、補助金終了後も自立的に運営されるよう、資金面の継続性が分かるように様式を工夫したい。

6 西三河レインボーフラッグス「西三河レインボープライド」申請金額 50,000 円

委員：刈谷市で把握している性的少数者に関する状況について教えて頂きたい。

事務局：パートナーシップ制度を 2023 年 7 月に設置し、2 組の届け出があった。相談は 1 組。性的少数者に関して相談できるコミュニティがないかと相談があった。今回のように当事者団体の活動が始まったことや名古屋等近隣の活動に相談が寄せられている状況。

委員：ボラセンに団体登録があり、定期的に活動がある。当事者の存在が見えないことから、どのように仲間を増やすか苦労されている。SNS で少しずつ活動の幅を広げ、東京や名古屋へ出かけて情報を得てつながりがうまれている。西三河にはまだ活動がないと聞いている。中京大学の風間先生の話では数%存在すると聞く。市内人口で考えれば少なくない。家族や職場など身近な存在に認められないなど、生きづらさを感じる人も多い。市民の理解を得ること、当事者につながることを大きなねらい。

事務局：統計調査では 13 人に一人と言われている。コミュニティへつながることを望む人、望まない人もいる中で、当事者全員がつながることを必ずしも良しとするものではない。

委員：トイレの利用はどうしているのか。

事務局：国の方針としては身体的特徴により使い分けることとされているが、難しい問題である。

委員：トイレに限らず、更衣室の問題などもある。

委員：潜在層も含めた実数は分からないが、対象となる参加者へどのように伝えることができるのか。

委員：当事者の方からつながってもらえる場をつくり、広く周知して呼びかけるほかないのではないのか。

事務局：ソーシャルメディアで宣伝するとある。

委員：市外で先行して行われているイベントの内容が示されると、これからやっていきたい中長期的な活動のイメージが湧きやすかった。活動目的やねらいなどを周知する上で何を持って成果とするか。一人の人とつながることを良しとするか、団体の考えが確認できるとよい。

事務局：申請事業は当事者に限らず、広く一般を対象とした単日のイベントである。

■審議の結果、以下の通り決定した。

- ・まちづくり活動支援事業 5 万円以下の申請について、4 事業全てを採択とする。

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5 点）

申請順	団体名	事業名	合計点	採否
1	サブロー・ガルテン	俳優松原実智子さんの朗読を聞く会	19.38	採択
2	亀城わっしょいプロジェクト	コネクトームでハーブの育成を通じた人々の交流	17.75	条件付き採択
3	Liaison（リエゾン）	保護犬・保護猫チャリティーマルシェ プ・ア・プ	18.63	採択
4	西三河レインボーフラッグス	西三河レインボープライド	18.25	採択

■その他、事務連絡

(5万円以下書面採択)

- 条件付採択の申請については、条件を団体へ通知し、フォローアップ回答を得て、部会長に確認する。
- 団体へのメッセージ・コメントは、決定通知送付の際に団体へ伝える。指摘事項について事業実施前に確認ができた点は都度部会員に報告する。実施結果に関する点は実績報告の提出後に報告する。

(20万円以下：公開審査会審査)

- 公開審査会出席団体には、質問事項を団体へ通知、予算の数字など事前に回答可能な内容はあらかじめ書面で回答を得て部会員に共有する。その他事業の継続性や活動を始めた経緯等は公開審査会でプレゼンしていただくなど、質問を分類した上で通知する。
- 公開審査会での団体への質疑においては、温かい雰囲気の中で団体を育てる気持ちでご発言いただきたい。

3. その他

(1)第3回夢ファンド部会(公開審査会)

令和7年1月18日(土)12時50分集合 刈谷市社会教育センター5階 502実習室
【審査】13時00分～15時50分 刈谷市民ボランティア活動センター

(2)まちづくりびと支援事業補助金申請状況

- 10月末時点、7名より申請があり、事務局審査により採択した。
- 内容は7件全て「防災・減災カレッジ」研修への参加であった。